

# 一人ひとりの個性を尊重する 「みんなの遊び場」設置への考え

令和5年4月  
柏市

@柏ふるさと公園  
インクルーシブに配慮した遊具の設置や車いすで使用しやすい、平坦で衝撃を緩和するゴムチップ舗装など、「みんなの遊び場」として整備し、令和5年4月にオープン

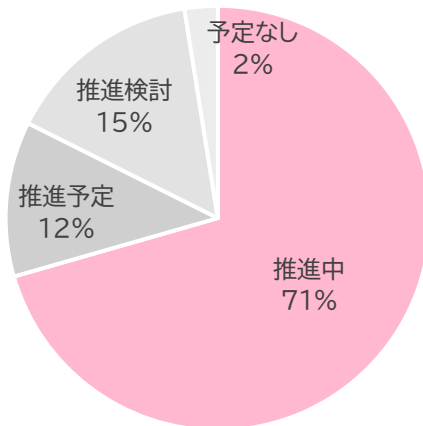
# 1 背景

## (1) 国内動向

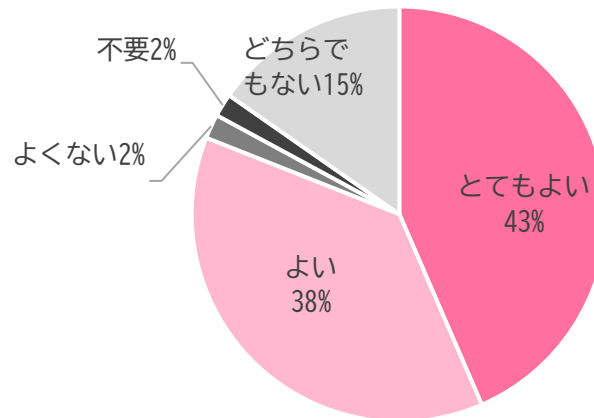
国内各地では、誰一人として取り残さない社会の実現を目指すSDGsの取り組みや障害の有無に関わらずあらゆる児童と一緒に遊ぶインクルーシブな子供の遊び場の整備が進められています。

令和4年度に市内在住の方を対象に行った公園利用実態調査(アンケート)では、あらゆる子が一緒に楽しめる「みんなの遊び場」の設置について、81%の方がとてもよい又はよいと回答しています。

SDGs取り組む自治体※1



みんなの遊び場に対して※2



千葉県内のインクルーシブ公園等の状況※3

市名	公園等の名称
千葉市	山王ふれあい公園, 打瀬第1公園, 犢橋公園, 豊砂公園
流山市	流山市総合運動公園, 南流山中央公園
市川市	ぴあぱーく妙典
野田市	のだしこども館

※1 令和4年度 SDGsに関する全国アンケート 有効回答：1,464自治体（自治体SDGs推進評価・調査検討会）

※2 令和4年度 公園の利用実態に係るWEB調査 有効回答数1,000人（柏市）

※3 令和5年3月 柏市調べ

# 1 背景

## (2) 公園に対する社会的ニーズ

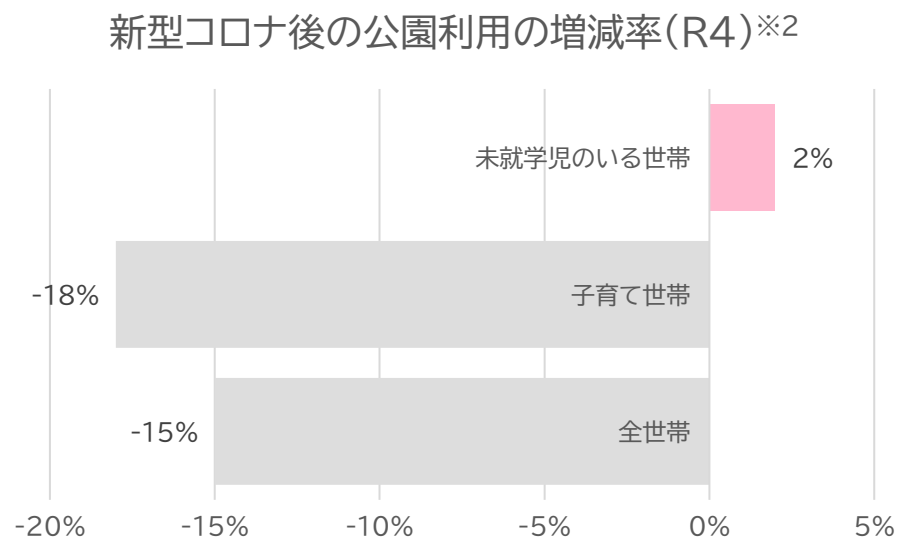
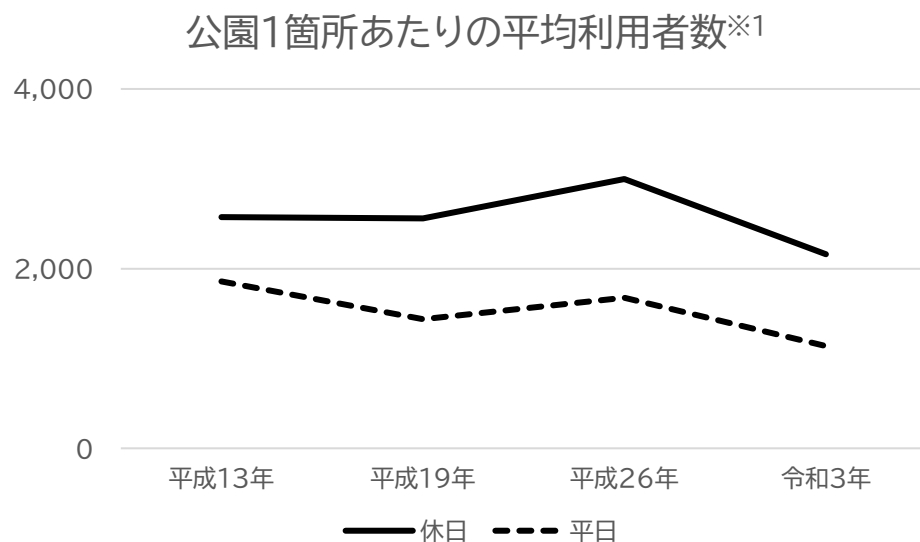
公園に求める場として、「暮らし：子育て，健康，レクリエーションなど暮らしを支える場」が最も求められています。機能としては、「楽しむ：ベンチ，様々な遊具」が最も多くなっています。施設では，休憩施設のほか，誰もが遊べる遊具のニーズが高い状況です。

順位	(公園に求める) 場		割合
1位	暮らし	子育て，健康，レクリエーションなど暮らしを支える場	77%
2位	防災	災害時の避難場所，防災拠点など防災機能を有する場	71%
3位	自然	貴重な自然環境を保有している自然の大切さを学ぶ場	61%
順位	(公園に求める) 機能		割合
1位	楽しむ	ベンチ，誰でも使える遊具，大型遊具，年代毎の様々な遊具，健康遊具	76%
2位	景観	樹木，噴水など，リラックスできる景色	66%
3位	空間	イベント，ピクニック，ボール遊びなど，ある目的に対して自由に使える広場	60%
順位	(公園に求める) 施設		割合
1位	休憩施設	ベンチ，デッキなど休憩できる施設	74%
2位	誰もが遊べる遊具	障害をかかえる方なども含めたあらゆる人が遊べる遊具	69%
3位	屋外の屋根施設	荒天時，猛暑日も快適に利用できる施設	64%

### (3) 新型コロナ後の公園利用

令和元年に発生した新型コロナウイルス感染症は、世界規模で感染拡大し、公衆衛生の領域に留まらず、国内及び市内の社会経済活動に甚大な影響を及ぼしました。

この影響を受け、全体としての公園利用者数は減少しています。※1・2、しかし、**未就学児の世帯においては、コロナ禍にも関わらず、僅かであるが増加※2**しており、**公園における子供の遊び場は、非常に貴重な場である**ことを示す結果となっています。



※1 令和3年度 都市公園利用実態調査 アンケート調査数41,523人 (国土交通省)

※2 令和4年度 公園の利用実態に係るWEB調査 有効回答数1,000人 (柏市)

## 2 課題

### (1) 障害のある子の公園利用実態

令和4年度に、障害のある子のいる世帯などを対象に行った公園利用実態調査で、障害のある子は、偏見や差別、遊具や公園の施設、遊び場の運用などに起因して、**障害のない子と同じように自由に遊ぶこと、気兼ねなく遊ぶことができていない**状況にあることが分かりました。

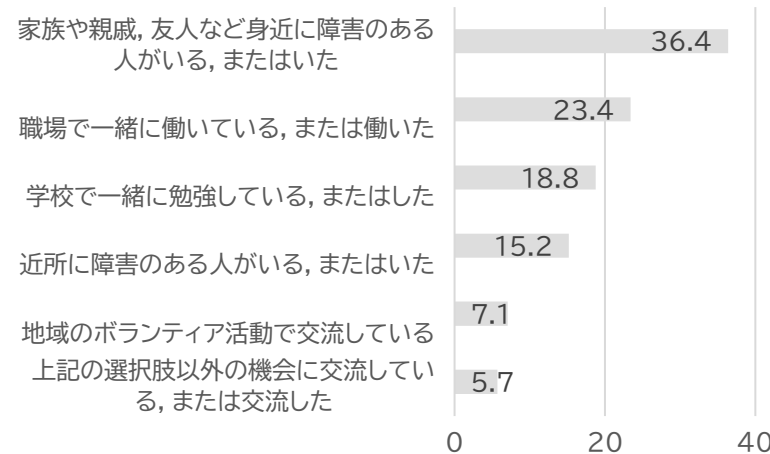
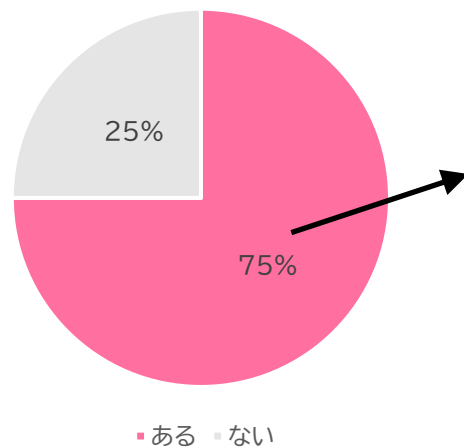
ハードル	主な意見主な意見※(一部抜粋, 簡略化)
偏見差別	<ul style="list-style-type: none"><li>公園で遊ぶことのハードルは、<u>障害児が大声を出すことや順番待ちなどができないことによる「他者の目」</u>だと思います。</li><li>知的障害児を公園に連れて行くと、<u>周りから好奇の目でみられるので、早朝や夕方と人が少ない時間に行く。</u></li><li>ダウン症の男の子です。登るものなどが遅く健常者の子に睨まれたり話せないのでおお～と感激した声をあげたときに振り返られてこそそ話したりされます。<u>視線が痛い、可哀想</u>になってきます。</li></ul>
公園施設	<ul style="list-style-type: none"><li><u>障害児が遊べる様な遊具の開発や、トイレ、駐車場の完備など、施設面がないと、本当の意味での「公園」になるのは難しい</u>と思います。</li><li>遊具や施設が整っていないため、<u>房総まで行って遊ぶ事</u>があります。また、<u>兄弟(障害のある子とない子)と一緒に遊ぶことができません。</u></li></ul>
場の運用	<ul style="list-style-type: none"><li>公園で遊ばせたいですが、<u>発達障害のある我が子は定型発達の子と一緒にの空間で遊ぶのは親も子もしんどい</u>と思う場面がある。</li><li>今は大型の複合遊具が主流になっているようですが、それだと健常なお子さんが使っている間、中々<u>障害児は使いづらい</u>です。複合遊具では暗黙のルールのようなものがあります。例えば、<u>「ここから登ってこちらから降りる。逆から行くのはダメ」「後ろがつかえてしまわないよう、立ち止まらず進み続ける」というようなものですが、障害児にはこれを守るのは難しい</u>です。特に体にハンディがある子は、健常児のペースに合わせるのは無理があります。</li><li><u>周りの子どもとのトラブルが一番心配</u>です。でも、たくさんの子どもたちとの関わりは大切にしたいので、<u>公園遊びは必要</u>だと考えてます。</li><li>小さくても良い、遊具もなくても良いので、<u>障害児専用の公園があれば遠慮なく遊べて嬉しい</u>です。周りに迷惑をかけるので、公園に行きたいときは<u>子供が居なくなった夕方から夜に行く事</u>が何度かありました。</li></ul>

## (2) 障害のある人との関わり方について

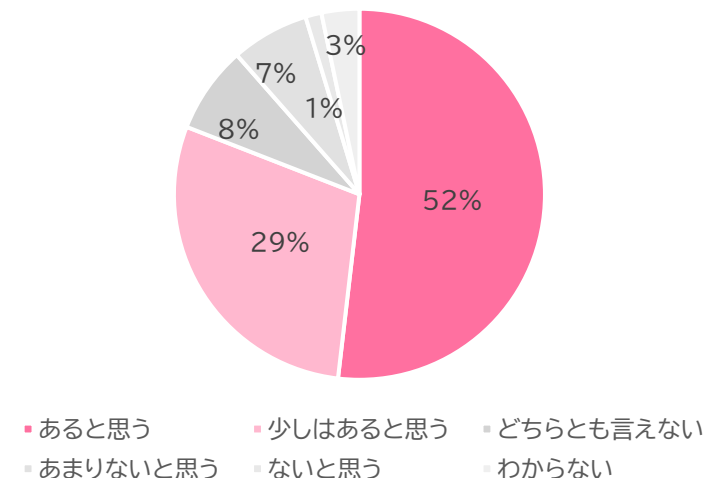
令和4年度に障害福祉課が実施した一般の市民の方に向けたアンケート調査で、「障害のある人との関わりや交流があるか」という設問に対して、「家族や親戚、友人など身近に障害のある人がいる、またはいた」という回答が最も多く、「関わったことはない」と回答した方は2割半ばでした。

また、「障害のある人に対する差別や偏見はあると思うか」と尋ねたところ、「あると思う」が約5割、「少しはあると思う」が約3割となっており、全体で8割程度となっています。障害の有無にとらわれないこと、社会で共に暮らしていくことが日常となるよう、障害に関する相互理解が求められています。

障害のある人との関わり



障害のある人に対する偏見や差別

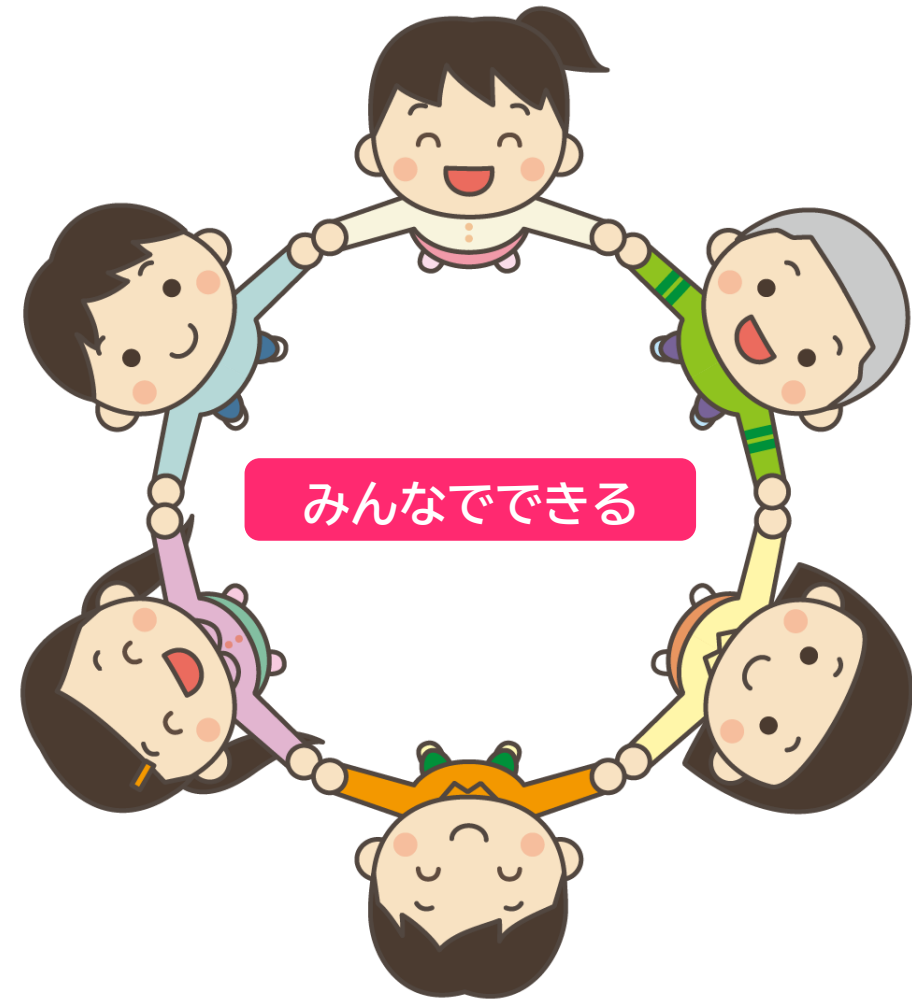


※令和4年度 柏市障害者計画策定のための基礎調査 市民向けアンケート回収数：389票（回収率39.3%）

### 3 市の目指す姿

---

公園をフィールドに、障害のある子、障害のない子が一緒に遊び、学べる機会がある場(みんなの遊び場)を創ることによって、お互いを思いやる心を育み、その**子供達が大人になった時に障害者に対する差別や偏見がなくなる社会の実現**を目指します。



## 4 リーディングプロジェクト

リーディングプロジェクトとして、以下の公園にみんなの遊び場を設置し、在り方を模索します。

### (1) 選定公園

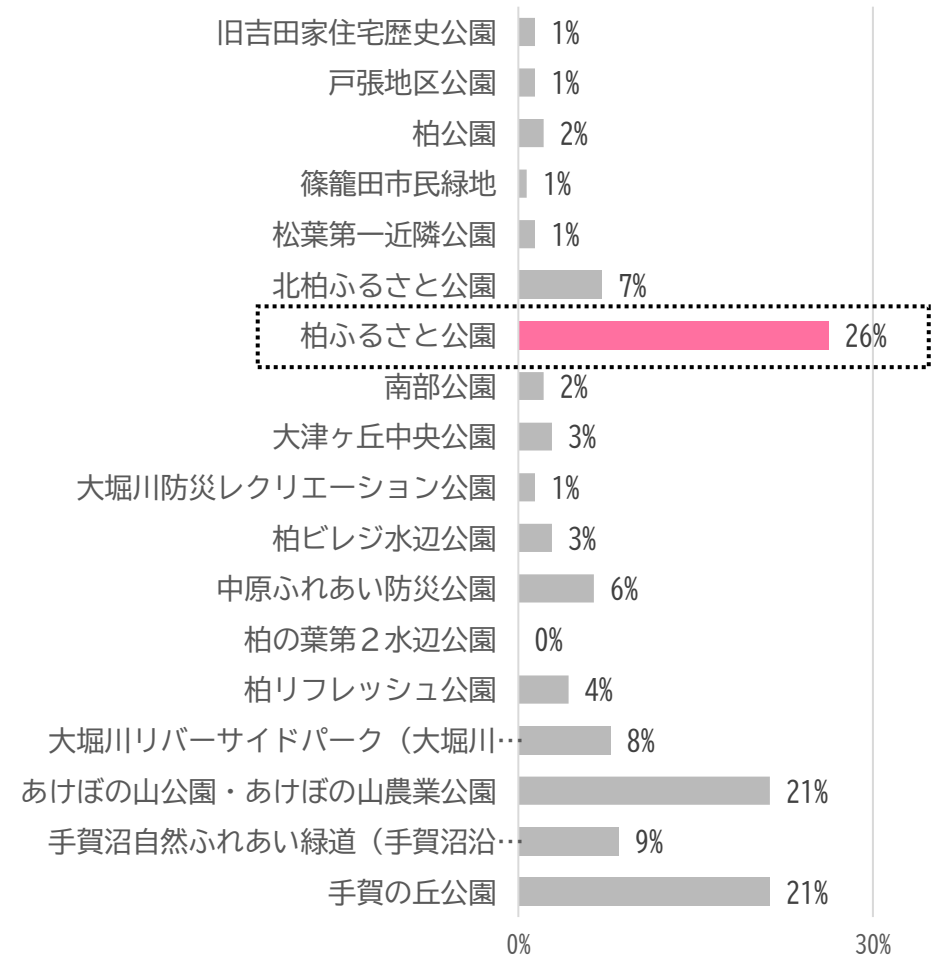
柏ふるさと公園

### (2) 対象公園の選定理由

本公園は、以下の実態があり、障害のある子供達に日常的に利用される可能性が高いため

- ① 障害のある世帯や障害福祉事業所などを対象に行った公園利用実態調査(アンケート調査及びヒアリング調査)で、もっとも利用が多い公園です。
- ② 公園隣接地には、こども発達センターやキッズルーム、民間の障害福祉事業者があり、日常的に障害のある子供達に利用される可能性が高い公園です。

障害のある子がいる世帯がよく利用する市の公園



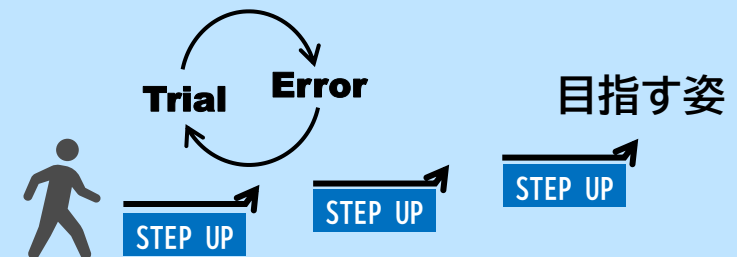


### (3) リーディングプロジェクトの概要

まずは、今回設置するみんなの遊び場にて、公園施設や運用などについて、Trial&Errorを繰り返し、少しずつステップアップしながら、障害のある子及びその親等が気兼ねなく遊べる環境を模索します。その結果、一定の知見や手法が得られた時点で、今後、市内に横展開することにより、目指す姿の実現に繋がります。

- ❖ みんなの遊び場が、障害のある子供、障害のない子供にどのように利用されるか、定期的に**利用の実態を調査**します。
- ❖ 福祉、子供、教育等の多様な関係者と連携し、定期的な講座やイベント等の機会を提供するなどして、**みんなの遊び場の在り方を模索**していきます。
- ❖ 上記のイベントの一環として、令和5年度に「インクルーシブDAY～障がいのある子もない子も一緒に遊ぼう～」を**月に1度土曜日に開催**する予定です。

- 単に遊具を設置するだけでは、多様な子供達と一緒に遊び、学べる機会を持つ「みんなの遊び場」にはなりません。遊具や遊び場を実際に使いながら、少しでも改善し、よりよい遊び場になるよう、グレードアップしていくことが必要です。
- みんなの遊び場が、障害のある子にとって、継続的に利用できる、利用したいと思えるような環境づくりが重要です。



一人ひとりの個性を尊重する「みんなの遊び場」設置への考え  
令和5年4月1日  
発行：都市部公園緑地課，福祉部障害福祉課